



Education Minor Program “MAB/SDGs” Orientation on April 7, 2022



<https://youtu.be/BtOicniNDQw>
ユネスコエコパークビデオ【日本語】

• 2022年度・春季開講分

UNESCO Chair = Higher Education Research Program course accredited by UNESCO. The goal is to establish an international UNESCO standard for the MAB/SDGs education minor programme.

MAB = UNESCO Man and the Biosphere (Man and the Biosphere)

Programme (1971-), which aims to harmonize nature and human activities.

SDGs = United Nations "Sustainable Development Goals" (17 goals for 2015-30)

Minor Program = A certificate of completion by completing the required credits outside of the main major.

オリエンテーションの流れ

- チェアホルダー挨拶
- 副専攻「MAB/SDGs」の概要紹介
- 履修案内
- 質疑応答

生物圏保存地域BRを活用したSDGsを担う人材育成

Developing Human Resources for the SDGs with Biosphere Reserves BR

- UNESCO Chair = Higher Education and Research Program course accredited by UNESCO. The goal is to establish an international UNESCO standard for this menu of minors.
- MAB = UNESCO Man and the Biosphere (Man and the Biosphere) Programme (1971-), which aims to harmonize nature and human activities.
- SDGs = United Nations "Sustainable Development Goals" (17 goals for 2015-30)
- Minor Program = Earn a certificate of completion by completing the required credits outside of the main major.

Completion Requirements

Categories	単位数 (カテゴリー別)	単位数 (合計)
	単位数 (カテゴリー別)	単位数 (合計)
Elective Required Courses	≥ 2 credits	≥ 8 credits
Environmental Conservation	≥ 4 credits	
MAB/SDGs Global Training Examination or other equivalent course	≥ 1 credit	

Required Courses: either

“MAB and SDGs (Hiroyuki Matsuda and Miguel Clusener-Godt)”

Or “Introduction to ESD (Reiko Matsubaguchi)”

and the following training course (university-wide education courses)

MAB/SDGs Global Training Examination or equivalent overseas training course

• MAB/SDGs グローバル化演習

[1] 交換留学等、本学以外で取得した単位についても、一定の審査を経て認められれば読み替え可能とする。

[2] 海外研修科目の場合、生物圏保護区（Biosphere Reserve）実習もしくはそれに相当する内容が含まれている必要がある。MAB/SDGs グローバル化演習 I、IIではなく、「相当する海外研修科目」を修了単位とする場合、レポートの中でそれを示す必要がある。

- 目的 ユネスコ「人間と生物圏（MAB）」計画は持続可能な開発と生物圏保全の調和を目指している。また、国連持続可能な開発目標（SDGs）は環境保護と人間社会の包括的な発展を目指している。これらの理念を学び、環境・社会・経済の調和のとれた発展の方法を、学生自身が選んだ実践的諸課題について考え、議論し、MAB計画に基づくSDGsを担うとはどういうことなのかを学ぶ。
- 1.持続可能な開発目標(SDGs)とユネスコMAB計画(松田裕之、C-G)
- 2.世界遺産と生物圏保存地域（BR）、ジオパークの比較（松田裕之、C-G)
- 3,4:各国の生物圏保存地域の特徴と課題の紹介（学生）
- 5.生態系サービスへの支払い（PES）と生物圏保存地域（松田裕之）
- 6.ESG投資とBR産品のブランド化（松田裕之）
- 7,8.各国、各自治体等のPESの取り組みの特徴と課題の紹介（学生）
- 9.国連SDGsとBR優良事例の紹介（松田裕之）
- 10,11.各国、各自治体等のSDGsの取り組みの特徴と課題の紹介（学生）
- 12.ESD（持続可能な開発のための教育）について（松田裕之）
- 13. ESDと生物圏保存地域（松田裕之）
- 14-15.BRを活用したESDプログラムを作ろう（学生）
- 16.最終発表（学生）

PES = Payment for Ecosystem services



- Purpose The UNESCO Man and the Biosphere (MAB) Programme aims to harmonize sustainable development and biosphere conservation. In addition, the SDGs aim at environmental protection and comprehensive development of human society. Students will learn about these principles, consider and discuss practical issues of their own choosing on how to develop in harmony with the environment, society, and economy, and learn what it means to be responsible for the SDGs based on the MAB plan.
1. What is the UNESCO MAB Plan (H. M.)
 2. Comparison of World Heritage Sites, BRs and UNESCO Global Geoparks (H. M.)
 3. Characteristics and challenges of biosphere reserves in each country (S.T.)
 4. Characteristics and challenges of biosphere reserve areas in each country (S.T.)
 5. **Payments for ecosystem services** (PES) and BR areas (H. M.)
 6. ESG investment and branding of BR products (H. M.)
 7. Characteristics and challenges of PES initiatives in each country and municipality (S.T.)
 8. Introduction of SDGs and BR good practices (H. M.)
 9. Issues of SDGs initiatives of each country and local government (S.T.)
 10. ESD (Education for Sustainable Development)
 11. ESD and Biosphere Reserve (H. M.)
 12. Let's make an ESD program using BR



ESD（持続可能な開発のための教育）入門

松葉口玲子(全学教育／教養教育科目)秋学期2単位)

- ESD(持続可能な開発のための教育：持続発展教育)の概要について学ぶ。
具体的には、ESDが誕生するまでの背景や歴史、特徴的な学びの手法やテーマ、実践事例などを扱う。
- 1. ガイダンス
2. イントロダクションーESDとは何か
3. ESDとSDGs・消費者教育
4-5. 人類の成長基盤：教育の段階（1）
6-7. 教育の平等と公正（1）
8. 環境と経済
9-12. 教育環境の整備とパートナーシップ（1）
13. ESDプログラムを作ろう
14. ESDプログラムを発表しよう
15. まとめ
- 教科書 北村友人ほか「[SDGs時代の教育：すべての人に質の高い学びの機会を](#)」

MAB/SDGs関連科目 (2022/3/27現在)

		授業リスト	
◎	MAB計画とSDGs (環境/全学)	ESD入門 (教育)	MAB/SDGs グローバル化演習Ⅰ,Ⅱ(環境/全学)
環境保全／環境調和型都市／SDGs 基盤科目	人文地理学(教育)	教育人間学(教育)	里山でつなぐESD考(教育)
	生物学概説Ⅱ,Ⅲ(教育)	化学概説Ⅲ(教育)	くらしの化学(教育)
	日常の中の物理(教育)	構成工芸実技Ⅰ(教育)	学校保健・小児保健(精神保健を含む。)(教育)
	電気基礎(教育)	地学概説Ⅱ(教育)	地学概説Ⅲ(教育)
	木材材料学(教育)	おいしさの科学(教育)	国際環境経済論(経済)
	中級国際環境経済(経済)	地域連携と都市再生B(経済)	途上国経済(経済)
	中級途上国経済(経済)	比較農業政策(経済)	中級比較農業政策(経済)
	企業環境マネジメント論(経営)	地域環境マネジメント論(経営)	International Business(経営)
	マクロ会計論(経営)	ビジネスゲーム(経営)	情報システムとイノベーション(経営)
	ビジネス・エコノミクス(経営)	材料力学Ⅱ(機械)	流体力学Ⅰ(機械)
	機械工学と社会のかかわり合い(機械)	電磁物性(機械)	材料学入門(材料)
	海洋工学と社会(材料)	海洋開発概論(海洋)	航空宇宙工学概論(海洋)
	宇宙地球化学(化学)	触媒化学基礎論(化学)	物質工学と社会(化学)
	エネルギー・マネジメント論学応用)	分離工学学応用)	安全・環境化学学応用)
	安全・環境化学学応用)	植物科学I(バイオ)	数理科学概論(数理)
	物理科学と先端技術(物理)	物理キャリアアップ(物理)	エネルギーと環境(電情)

		授業リスト	
環境保全／環境調和型都市／SDGs 基盤科目	電気エネルギーシステム工学(電情)	電子情報システム概論(電情)	情報工学概論(情報)
	マルチメディア情報処理(情報)	データサイエンス(情報)	機械学習(情報)
	情報・物理セキュリティ(情報)	国際開発学講義(社会)	都市哲学講義(社会)
	都市文化マネジメント講義(社会)	文化人類学講義(社会)	映像社会論講義(社会)
	開発人類学講義(社会)	空間文化論講義(社会)	現代芸術論講義(社会)
	現代ポピュラー文化論講義(社会)	国際政治学講義(社会)	都市文芸文化論講義(社会)
	東アジア近現代史講義(社会)	東アジア都市社会論講義(社会)	格差社会と社会的包摂講義(社会)
	都市政策論講義(社会)	社会運動論講義(社会)	西洋建築史Ⅰ,Ⅱ(建築)
	近代建築史A, B(建築)	日本建築史Ⅰ,Ⅱ(建築)	都市環境設備計画Ⅰ,Ⅱ(建築)
	都市基盤安全学入門Ⅰ,Ⅱ(基盤)	国土学とグローバル社会Ⅰ,Ⅱ(基盤)	生態リスク学入門(基盤)
	生態リスクマネジメント事例研究(環境)	環境をめぐる諸問題Ⅱ(環境)	環境汚染の科学Ⅰ,Ⅱ(環境)
	社会環境リスク共生概論A(都市環境)(環境)	環境リスクとつきあうⅠ(環境)	地球誕生のしくみ(環境)
	地球科学(環境)	高齢社会とリスクA, B(環境)	個体群生態学・進化生態学概論Ⅰ,Ⅱ(環境)
	生態系と物質循環Ⅰ,Ⅱ(環境)	生物群集とリスクⅠ,Ⅱ(環境)	都市生態学(環境)
	里地と山地の生態学Ⅰ(環境)	保全生態学(環境)	生態系計画学(環境)
	生態系設計学(環境)	都市・地域経済学Ⅰ,Ⅱ(環境)	環境法Ⅰ,Ⅱ(環境)

MAB/SDGsグローバル化演習 I or II:

- 横浜国大におけるユネスコチェアのテーマである**Education in biosphere reserves (BR) for sustainable societies**に関する海外実習を行う。BRなどの自然保護区を訪問し、参加学生の学部における専門を生かして、自然保護区や関係する周辺地域における**sustainable societies**実現のために何ができるのか考える。訪問イベントは複数回行われる予定であり、自然保護区の訪問と学部における専門に関する行事を組み合わせたイベントもある。
- 正式な履修登録を行った学生に対してガイダンスを行う。日程や旅費、催行人数制限などによる履修キャンセルは、通常の履修キャンセル期間の後も認める。希望する学期により**MAB/SDGsグローバル化演習I**（春学期と夏休み）と**II**（秋学期と春休み）を選択する。
事前指導：MAB/SDGs副専攻の選択必修科目のうち少なくとも1つを履修。事情により履修できない場合は動画教材を提供する。
研修：BRなどの自然保護区で調査を行いレポートを作成する。レポートには、訪問調査の日程、地域とBRの状況の記載、インタビューや観察で明らかになった課題（保全、利用、地域の課題など）や自分で発見した魅力、自らの学部での専門を生かしてその課題や魅力の発展にどのように貢献できるか、などを記載する。
事後指導：学期の終わりなどにまとめて発表会をおこない学生が上記レポートを発表し、学生どうしや教員とdiscussionする。
なお成績や家計状況の基準（JASSO奨学金相当）により、奨学金や旅費補助を利用できることがある。感染状況その他の事情により海外研修が実施されない場合がある。
- 訪問先についての事前の情報収集。訪問後に深く知るための情報収集。訪問先を含む**sustainable society**実現のための考察。
- MAB/SDGs副専攻の選択必修科目のうち少なくともひとつを履修する（MAB計画とSDGs, ESD（持続可能な開発のための教育）入門）。事情により履修できない場合は動画教材を提供する



MAB/SDGs グローバル化演習 I or II:

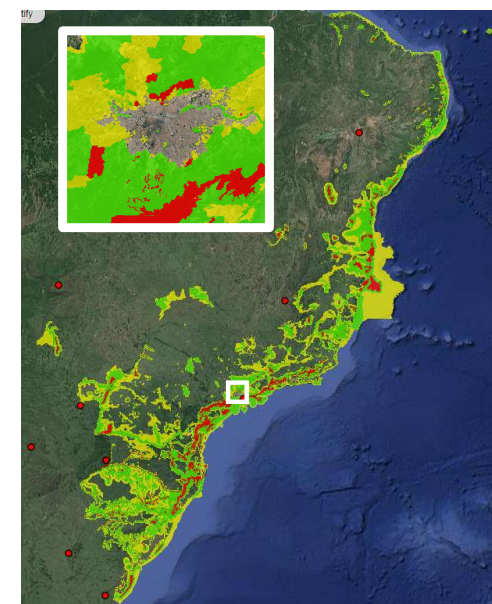
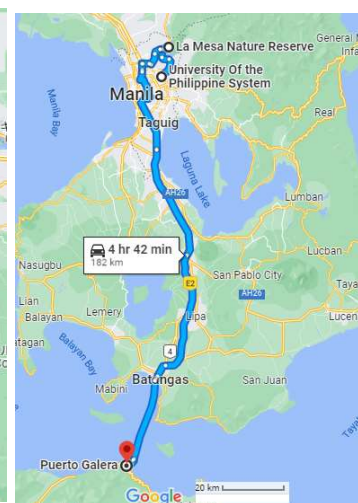
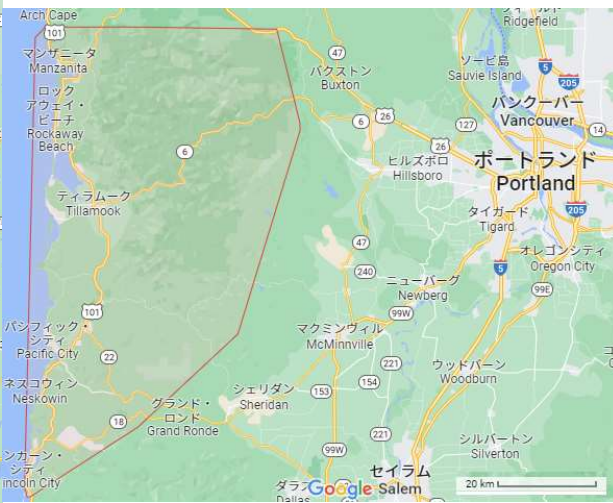
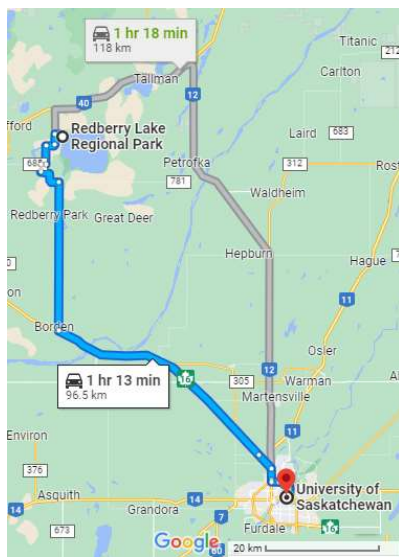
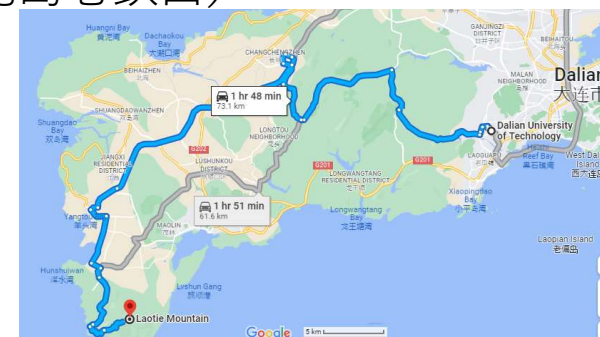
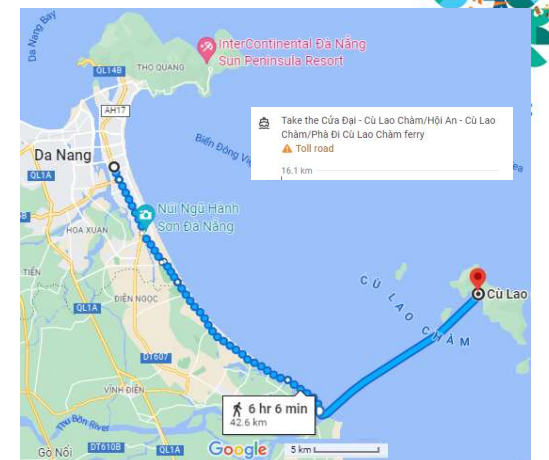
- スケジュール（案＝検討中）
- [海外PBL開始前・横浜国立大学にて] ・初期ガイダンス（安全・セキュリティ研修・MAB計画講義録画受講、訪問先講義の遠隔受講など）**(予定)**
- [海外PBL1日目]（日曜日）日本からの派遣
- [海外PBL2日目]（月） ・協定校とのオープニングイベント ・PBL活動の指導 ・PBL活動（学生は材料力学、伝熱、ロボット制御からコースを選択）
- [海外PBL3日目]（火） ・協定校とのオープニングイベント ・PBL活動（学生は材料力学、伝熱、ロボット制御からコースを選択）
- [海外PBL4日目]（水）地場産業への教育旅行
- [海外PBL5日目]（木）PBL活動（つづき）
- [オーバーシーPBL6日目]（金）～ワークショップ発表準備～合同ワークショップ～クロージングイベント
- [海外PBL7日目]（土）～生物圏保存地域・世界遺産などへの教育旅行
- [海外PBL8日目]（日曜日）～ 帰国
- [海外PBL終了後] ～フォローアップ～最終報告会

JASSOの補助。一人●万円



海外研修先の例

- Da Nang Univ. – Cu Lao Cham – Hoi An
- Univ. of São Paulo – Mt. Atlântika
- Dalian Univ. – Snake Is. & Mt. Laotie (蛇島老鉄山)
- Prince of Songkla Univ. – Ranong BR
- Univ. Saskatchewan – Redberry L. BR
- Univ. of Philippines – Puerto Galera
- Univ. of Portland – Cascade Head BR



修了証（学長名）



- 副専攻プログラム修了者には、完了した学期末に「副専攻の修了証（Certificate）」を授与



Yokohama National University

UNESCO Chair on Education in Biosphere Reserves for Sustainable Societies

第 号

修了証

Certificate of Completion

This is to certify that

Your name##

Has satisfactorily fulfilled the requirements of the graduate minor degree in ↓
MAB and SDGs Education Program↓
and thus successfully completed.

On this, the 23rd day of March in the year 2023

Certificate Number: ####

Izuru Umehara, President
Yokohama National University

Official Seal of
Yokohama National University

氏名

生年月日

ユネスコチェア「生物圏保存地域を活用した持続可能な社会のための教育」プログラムに基づく横浜国立大学の学士相当の副専攻プログラム「MAB・SDGs」を履修し修了したことを称します。

横浜国立大学長

梅原 出

（準備中。イメージ）

副専攻P運営委員会（履修認定） Steering committee for the minor P.

- ユネスコチェアホルダー
松田裕之 matsuda@ynu.ac.jp 045-339-4362
- 教育学部 松葉口玲子
- 教育学部 倉田薫子
- 経済学部 氏川恵次
- 経営学部 近藤久美子
- 都市科学部 小池文人
- 理工学部 松井和己
- 副学長 栲島洋美
- 横浜国立大学国際教育係（045-339-3186）